

## ★『非認知能力の育成』についての講演会に参加してきました!★

### 中山 芳一 (なかやま よしかず)

1976年1月、岡山県岡山市生まれ、岡山大学教育学部卒業後、9年間の学童保育現場を経て教育方法学の道へ  
2010年から岡山大学全学キャリア教育や正課外教育の主担当教員となる  
これまで実践してきた学童保育とキャリア教育との間に共通する  
伸ばしたい力が「非認知能力」であることを見出す  
以降、「非認知能力」育成のための研修や講演、執筆活動に勤しんでいる



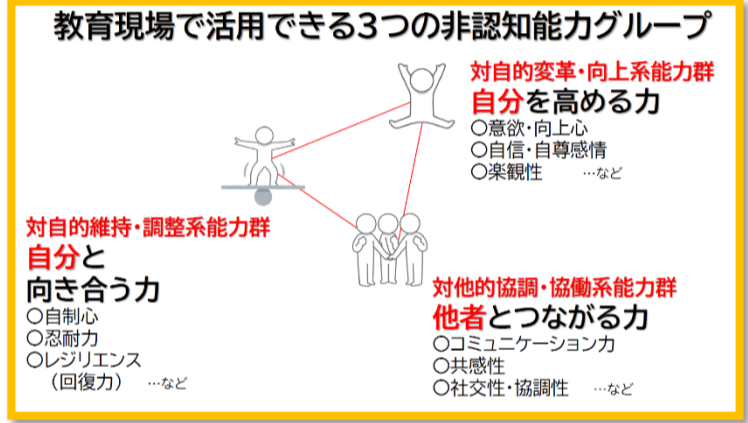
ベネッセコーポレーション主催の講演会に参加し、『学校現場での非認知能力育成』の研究をされている岡山大学中山芳一教授のお話を聞いてきました。中山教授は、左にあげたような数多くの書籍を出版されています。みなさんも本屋さんで見たことがあるかもしれませんね。『「ドラゴン桜」に学ぶ東大メンタル』は、進学校生にはぴったりの本ではないでしょうか？

今回の講演会は高崎市で行われたのですが、講演会であといくつかの県を訪問すれば『全国制覇』するとおっしゃっていました。日本全国で講演会を開催するほど『非認知能力育成の研究』で活躍されている方です。私もいろいろな『非認知能力』の講演会には参加させていただいておりますが、中山教授のお話は大変わかりやすく、かつ楽しく拝聴させていただきました。今回は中山教授の許可を得ながら、みなさまに講演会の内容を御紹介させていただきます。



右のスライドを見てください。中山教授は、学校現場で育成できる非認知能力を3つのグループとして提示されていました。『①自分を高める力』『②自分と向き合う力』『③他者とつながる力』です。それについて私なりに考えてみました。

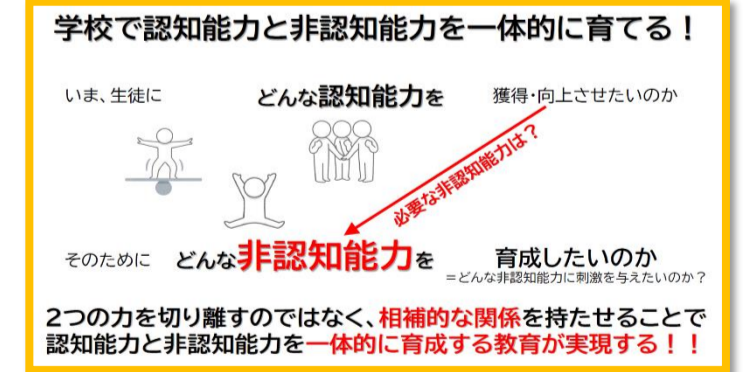
学習面でも、部活動でも『①自分を高める努力』をし、そこではさまざまな壁が現れることでしょう。そこで『②自分と向き合う努力』が必要になるわけです。失敗から立ち直る力も必要ですし、失敗を分析し、修正する力も育成したいものです。そして『③他者とつながる力』があれば、『協働』もできますし、励まし合うなど『切磋琢磨』という状態もでき、プラスに働くはず。自分になにか足りなければ、他者に支援を求めることもできるわけです。すなわち、この『3つの力』があれば、進学校生としての悩みは解消されていく方向につながると思いませんか？もちろん『理想論』かもしれませんが、まずはこの『3つの非認知能力グループ』を『意識』することからはじめてみませんか？



左のスライドのタイトルを見てください。『非認知能力は自分自身の意識で自ら伸ばす力』とあります。また、赤字の吹き出しには『生徒が、だれと出会い、どんな経験をして、そこから何を学んで、自らの意識につなげられるか!』とあります。『人との出会い』や『さまざまな経験』を『刺激』とし、『自らの意識』につなげることによって『より望ましい状態へ成長する』ということなのだと思います。

もちろん、その過程において『教師による見取り』『教師の言葉がけ』『教師の援助』などが『効力』を発揮するよう我々は生徒を支援していくことが重要となります。保護者からの関わりも教師からの関わりと同様に重要だと思います。そういう意味でも、家庭と学校が密に連携することが必要です。よって信頼関係を築けるよう努力して参ります。これからも生徒の成長を促進する働きかけを心がけて参ります。

右のスライドの上下のタイトルが重要です。『認知能力』と『非認知能力』を『一体的に育てる!』とあります。とかく学校では『成績』や『偏差値』の話をしがちですが、それだけでは『もったいない』のです。2つの力に『相補的な関係』を持たせ『一体的に育てる意識』が必要です。



自分の夢の実現に向かい、学業に励み、その過程で生じるさまざまな場面において、時には『楽観性』や『鈍感力』も必要になります。『根拠のない自信』という『自尊心』も大いに役に立つ場面があるはず。学力を向上させるだけでなく、その過程に付随する『非認知能力』にも意識を向け、その力に磨きをかけていこうではありませんか。私ごとで恐縮ですが、私は『やれることはすべてやる性分』なのですが『その結果については、全くクヨクヨしない鈍感さ』が強みだと思っています笑

中山教授と『前南生徒&保護者向け講演会』の実現に向けて交渉中です。よい知らせをお待ちください! 文責: 星野 亨 (教頭)

★校長より★  
本校が、群馬県教育委員会から非認知能力育成に係る指定を受けてから半年が経とうとしています。MAENAN SAH Journal も第 19 号となり、これまでいくつかの号で前南生の SAH に係る取組を紹介してきました。現在も中庭で新たな取り組みが進行中です。前南生のたくましさを感じて、嬉しい限りです。さて、今号で紹介されている、「教育現場で活用できる3つの非認知能力グループ」に、例として「意欲、向上心、自制心、コミュニケーション力・・・等」があげられていてわかり易いと思います。私から1つ提案します。例えば、部活動等で試合に負けて「くそ、悔しい。今度こそは・・・」とつぶやく人を見たら、「非認知能力(向上心・レジリエンス)向上!」と声をかけてあげましょう。声に出して意識することが大事です。  
校長 関根 正弘